

1 単元名 「冬まつりをしよう」（生活単元8時間）

2 単元目標

- ・身近にあるものや、自然にある物などを使っておもちゃを作ることができる。
- ・みんなと楽しみながらおもちゃを作ったり、工夫したりすることができる。
- ・作ったものを使って、みんなでどんな遊びができるかを考えることができる。
- ・遊びを通して、楽しみながら他者と関わって活動することができる。

3 「ひびきあう三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題・・・子どもが解決したい問題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成
手立て・・・子どもの思いや願いの育ちを見とった単元構想と授業づくり

個別支援学級ブロックテーマ

「感じる心・気持ちを伝える自分」

個別支援学級は、合計33名の児童が在籍する。学年や生活経験、発達の段階が大きく異なるため、普段は個別の学習が中心となっているが、同じ場でできるだけ共に学ぶ交流学习を積極的に行い、日頃から交流学級の学習に参加している児童も多い。一人ひとり個別の時間割を組んで、個学での個別の学習や交流の学習を行っている。また、4月から週に1回の体育の学習で全体の合同学習を行っている。全体の人数が多いため、その他の学習は、クラス単位の活動が多い。

体育では、みんなで音楽に合わせて体を動かす活動、かけっこ、リレー、マット運動、水遊び、ボール運動などを行ってきた。運動会の前に行ったかけっこやリレーの学習では、友達と速さを競い合いながらも、勝敗にこだわりすぎず、楽しく運動できることを目標に取り組んできた。リレーでは、様々なクラスのメンバーを混合したチームを作り、作戦や走順を児童同士で話し合って決めるなどの関わり合いが見られた。勝敗へのこだわりが強く、負けを認めることが苦手な児童もいたが、友達との関わりの中で経験を積み、個々の課題を克服していけるようになっている。

7月には、みんなの教室の児童が「夏祭り」を企画し、個学の1年生をお客さんとして招待するという活動を行った。みんなの教室の児童は、上学年として、1年生が楽しく遊べるように内容を考えたり、当日は1年生に優しく教えたり、声を掛けたりし、相手を意識しながら活動に取り組むことができた。1年生も、上学年が作った遊びをととても楽しみながら、「またやってみたい」という気持ちをもつことができた。

4 単元と指導について

【単元について】

個学では、領域・教科をあわせた指導として生活単元学習を行っているが、他の教科と比べて児童の主体性を大事にして活動を進めている。今年度は、年間を通して畑を活用した野菜作りや、校外学習などで季節ごとに自然を見つける活動を計画・実施している。また、みんなの教室において、7月に夏祭り、10月にはハロウィンパーティーに招待された児童も多数おり、楽しかったイメージを持ち、次は自分たちがお店屋さんをして楽しんでもらいたいという気持ちが育ってきているのでそれを大切にしたい。

本単元では、秋の自然を見つけ、それを使った遊びや、児童の興味のある事柄を通して児童の力を高めたいと考えている。見つけた植物から作りたいものを考えたり、興味のあることから作りたいものを考えたりして、他の子を楽しませるという視点に立って考え、友達とのかかわりを大事にした活動になることを目指して

いる。

【指導について】

本年度、個学は合計33名の大人数となり、1年生から6年生まで実態も様々な子どもたちなので、この単元で取り組みたいお店の内容は個々でかなり違った内容になると予想される。そこで、上学年の子どもたちはこれまでの経験を生かし、子どもたちの願いや思いを取り入れた活動が展開されるように指導したい。例えば、お金を扱いたいという希望があれば、紙のお金やポイントカード等を作るなど、柔軟に対応したい。下学年の児童は夏にみんなの教室で経験した「夏祭り」の活動や、生活科で取り組んでいる「あきであそぼう」でのおもちゃ作りでの経験を生かして、お店の活動ができるようにしたい。

また、児童の実態により、言葉だけでは理解が難しい子もいるので、これからどのような活動をするのか全体で確認する時や、自分がやりたい活動を選択する時には、実物（教師や友達の作った見本）や写真などを提示し、活動の見通しが持てるようにする。

これまでの学習で、自分たちが拾った身近にあるどんぐりや松ぼっくり、生活の中にある廃材を遊びに活用することで、意欲的に活動できるようにしたい。しかし、作りたいものによっては、それだけでは足りないものもあるので、児童が家庭から持ってきたものや、教師の方で用意した木の実なども教材として使用していく。また、作品作りに必要な道具や材料を確実に用意しておくことや、個々の実態に応じてどこまで支援して活動させるかをしっかりと考え、指導者と支援者で連携をとって支援していきたい。

単元の前半は、一人ひとりの思いを大切にし、主体的に活動できるようにしたいので、「このおもちゃを作ってみたい」「この遊びをしてみたい」「この作品を作ってみたい」という思いを持たせられるように個別に声を掛けたり、教師が作った手本を見せたりする。後半は、友達とかかわりながら活動できることをねらうため、単元の途中で互いにおもちゃで遊ぶお店を出し合い、一緒に遊ぶ時間を設定する。それにより、後半の活動で友達の作った作品を真似して同じようなものを作ったり、友達の作ったもので一緒に楽しんで遊んだりする姿を期待し、それを個学の児童のひびき合いの姿としたい。

単元構想 個学 生活単元学習 「冬まつりをしよう」(全8時間)

単元のねらい

- 身近にあるものや、自然にある物などを使っておもちゃを作ることができる。
- みんなと楽しみながらおもちゃを作ったり、工夫したりすることができる。
- 作ったものを使って、みんなでどんな遊びができるかを考えることができる。
- 遊びを通して、楽しみながら他者と関わって活動することができる。

<みんなの教室>

- ・おもちゃを作って遊びたい。
- ・作ったおもちゃを他の人にも見せたい。
- ・他のクラスの人を招待してみる？
- ・たくさん呼ぶと密になるから…。

<個学全体の関わり>

- ・1年生の学校探検
- ・合同体育
- ・合同外国語

夏のハムフェスをしよう

- ・おもちゃをたくさん用意しよう。
- ・景品もいるね。
- ・スタンプラリーはどうか？
- ・個学の1年生を招待しよう！

<のぞみ・わかば>

- ・おもしろかった。
- ・またやりたい。
- ・1年生だけじゃなくて、他の学年も呼んで欲しかった。
- ・みんなで遊ぶと楽しいね。

<みんな>

- ・やってよかった。
- ・今度はもっと人を呼びたい。
- ・他のイベントもしたいな。

ハロウィンパーティ

- ・みんなで遊ぶのは楽しいね。
- ・違うクラスの人とも遊びたい。
- ・冬にも何かイベントをやりたい。

冬まつりをしよう

<1段階>

おもちゃ作りに関心をもち、教師と一緒に取り組もうとすることができる。

<2段階>

教師の援助を求めながら、おもちゃ作りに進んで取り組むことができる。

<3段階>

おもちゃ作りのための知識や技能を身に付け、自ら進んで取り組むことができる。

おもちゃの見本や写真を見せて、どんなものを作るか見通しが立てられるようにする。

自分の作りたいおもちゃが決められない場合は個別に話して決める。

必要な材料はあらかじめ用意しておき、どんなものがあるのか知らせる。

教師が見本を作り、自分が作りたいもののイメージをもてるようにする。

冬祭りでどんなことをしたいかな①

- ・おもちゃを作りたい。
- ・みんなで遊びたい。
- ・クリスマスが近いからプレゼントを作ろうかな。
- ・拾ったどんぐりや松ぼっくりでおもちゃを作りたいな。

どんなものがつくれるかな

- ・ボーリング ・めいろ ・的当て
- ・輪投げ ・射的 ・とんとん相撲
- ・けん玉 ・カップインゲーム など

冬祭りの準備をしよう②③④⑤

- ・いいおもちゃになるといいな。
- ・飾り付けたい。
- ・色々な種類のおもちゃを作ろう。
- ・作ったおもちゃで遊びたい。
- ・お店屋さんのようにしてみたい。
- ・友だちのおもちゃで遊びたい。
- ・お店さんの練習がしたい。

<1段階>

友だちのおもちゃ作りに興味を持ったり、一緒におもちゃを作ったりしようとするすることができる。

<2段階>

みんなと楽しみながらおもちゃを作ることができる。

<3段階>

自ら進んで他者と関わり、創意工夫しながらおもちゃ作りに取り組むことができる。

少人数でリハーサルを行うことで、本番の見通しが持てるようにする。

遊び方やルールをうまく伝えられない児童は、遊び方を実際に見せることを促す。

みんなで練習をしよう⑥

- ・お客さんとお店屋さん、どっちも練習しよう。
- ・みんなで遊ぶのはやっぱり楽しい。
- ・おもちゃをもっと工夫できそう！
- ・ほかの人のおもちゃでも遊びたい！
- ・足りなかったものを本番までに準備しよう。
- ・本番では、たくさんの人に遊んでもらうぞ。

A. のぞみ 2 ・ みんな ・ きぼうグループ
B. のぞみ 1 ・ わかば 1, 2 グループ
でそれぞれ練習を行う。

< 1 段階 >
友だちのおもちゃで遊ぼうとすることができる。
< 2 段階 >
おもちゃを通して他者と関わろうとする意欲をもつことができる。
< 3 段階 >
おもちゃを通して自ら進んで他者と関わり合いながら活動することができる。

みんなであそぼう ⑦⑧ (本時)

お店屋さん

- ・たくさん遊んでくれて嬉しい。
- ・上手に遊び方を紹介できた。
- ・今度はお客さんもやりたいな。

お客さん

- ・いろいろなおもちゃがある！
- ・同じおもちゃでも作り方がちがうね。
- ・たくさんプレゼントをもらったよ！
- ・自分のおもちゃでも遊んでもらいたい！
- ・あのおもちゃ、作ってみたい。

6 本時について

(1) 本時の目標

○友達に自分の作ったおもちゃを紹介し、一緒に遊ぶ中で、他者と関わりながら活動することができる。

(2) 個別の目標 (別紙参照)

(3) 本時の展開

学習活動		主な支援・留意点・【評価】
「冬まつり」 友達と楽しくおもちゃで遊ぼう 12/16 (金) 射的 間違い探し めいろ プログラミングゲーム まつぐりつり ようかいの家 キャップ点数ゲーム ロープウエー 雪玉ころがし バスケットゲーム ベル的当て・プレゼント 占い 射的 12/19 (月) ボーリング トントン相撲 カップインゲーム カップインゲーム けんだま コロコロ マラカス マラカス めいろ でんでんだいこ		・前時までの学習をふりかえり、本時の活動を確認する。 ・おもちゃと作った子どもの名前を提示し、どこで遊べるか分かりやすくする。 ・作ったおもちゃのルールを、言える子は言葉で言ったり、難しい子は実際に遊んで見せたりしながら相手に伝えさせる。 ・友達と一緒に遊ぶことで、他のクラスの友達とも関わり合えるようにする。 ・子どもの発言したことや、つぶやきから子どもの感じていることや気持ちをくみ取り、振り返りにつなげる。 ・スタンプカードを活用し、なるべく多くのスタンプが集められるようにし、一つのところで遊ぶのではなく複数の場所に行けるようにする。 【評価】別紙参照

7 実践を終えて

＜成果＞

- ・多くの児童が活動にいきいきと取り組むことができた。おもちゃづくりの段階から、個々に自分の作りたものを考え、ゲームにしたり、遊びにしたりすることができ、主体的に学習していた。児童の実態に適していた。
- ・児童の中には、人前で話したり発表したりすることが苦手な子もいるが、そのような子たちも個学という集団の中で自信をもって活動できていた。一人ひとりが輝いていた。
- ・普段は、学級単位での活動が多いが、冬まつりを通して他の学級や他の学年の児童同士、積極的に関わることができた。下学年の児童に優しく接している姿、遊びに来た友達が喜ぶように考えて活動している姿など、他者への意識が感じられた姿もたくさんあった。
- ・友達の遊びを見て真似したり、上学年の発表の様子を見て良い影響を受けたりした児童がいた。個学なりのひびき合いの姿が見られた。

＜課題＞

- ・経験の少なさから、お店のイメージがもてない児童も多かった。単元の中に、実際のお店を見に行くなどの活動を入れ、イメージをもたせてから活動を行っても良かった。
- ・個学の中では、多くの児童がいきいきと活動することができたため、その経験を交流級でも生かせると良い。交流級の児童をお店に招待することや、保護者を招待することも考えられるため、活動の場を広げたい。
- ・時間がたつと自分の言動を忘れてしまう児童もいるため、良い発言や良い行動に関しては、その場で確認したり、繰り返し聞いたりし、振り返りの場面に生かせるようにしたい。